

岩手県沿岸地域における 未来像の提言

—SWOT分析による震災から3年半 経過した被災地の課題の考察—

岩手県立大学 総合政策学部 近藤信一研究室

担当教員 近藤 信一

学部3年 阿部 大暉 菊池 千聖

佐々木 純子 中條 奈菜花

1

報告内容

I 研究概要

- 問題意識と本研究の研究目的
- 問題設定(研究概念図)
- 研究方法・手法・フレームワークの説明

II 研究成果

- 分析の結果(地域のSWOT分析)
- 分析の考察と導出された提言

2

| 研究概要

問題意識と本研究の研究目的

■ 問題意識

- ゼミの学生4名が岩手県出身者でありながら、沿岸地域に関わりが薄いため、研究を通じ沿岸が抱えている問題を身近に感じ、復興の一助になりたいと考えた。

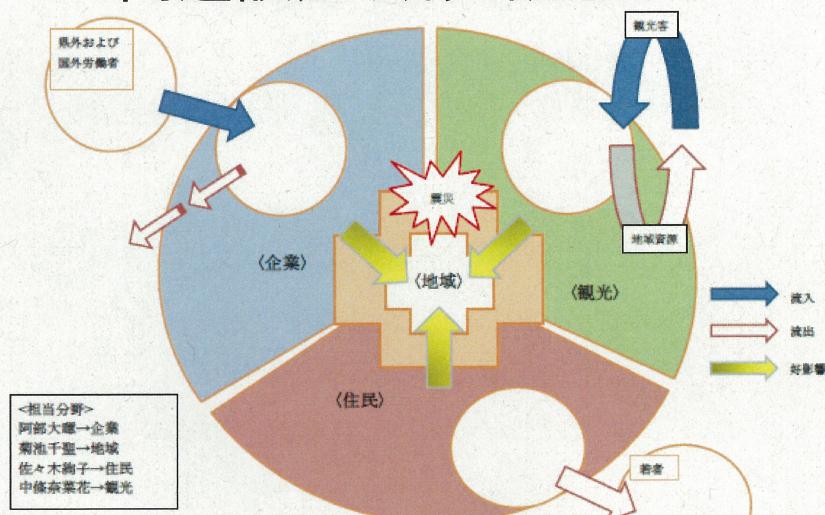
■ 先行研究と研究目的

- 震災後の被災地域を分析した先行研究は多いが、同地域を多角的な視点から分析している最近の調査研究は調べた限りでは少ない。
- 震災から3年半が経過し、被災地の抱える問題や現状は変化しつつある。
- 本研究は、**岩手県沿岸地域**において、震災から復興し、**成長した未来像**を描くための調査研究である。
- なお、本研究は、岩手県沿岸地域における地域活性化について、**学生視点での政策提言も目的としている**。

3

| 研究概要

問題設定(研究概念図)



4

| 研究概要

研究の方法・研究手法

- 当研究は研究方法として**定性的実証研究**を用いて行った。
- 定性的実証研究とは対象の質的な側面に注目した研究であり、本研究では**質的データを得るためにインタビュー調査を実施した**。(スライド6参照)
- インタビュー調査により収集した個別データを採用したフレームワーク(SWOT分析(スライド7参照))により分析し、その**個別データの分析結果を研究概念図の用に結合させて、調査対象である沿岸地域の分析と考察を行った**。(分析結果は次パネル参照)

5

| 研究概要

インタビュー調査箇所と狙い

〈企業〉 担当: 阿部大暉

狙い: 震災以降の企業の経営状況と今後の戦略を知る

○アローリンクス 株式会社 (H.26.9.24 11:00~12:00)

○森下水産 株式会社 (H.26.9.24 13:00~14:00)



〈地域〉 担当: 菊池千聖

狙い: 復興や地域活性化のための地域とのつながり方を知る

○三陸鉄道 株式会社 (H.26.9.22 11:00~12:00)

○岩手県沿岸広域振興局宮古地域振興センター(H.26.10.16 13:00~14:00)



〈住民〉 担当: 佐々木純子

狙い: 同年代の活動と官民一体の住民支援について知る

○(カフェ)エレクシアコーヒー (H.26.9.24 14:00~15:00)

○大船渡市市民活動支援センター(H.26.9.24 16:00~17:00)

〈観光〉 担当: 中條奈菜花

狙い: 沿岸地域における観光事業の地域による違いを分析する

○宮古市観光文化交流協会 (H.26.9.22 15:00~16:00)

○大船渡市観光物産協会 (H.26.10.16 13:00~14:00)

6

| 研究概要

フレームワークの説明: SWOT分析

- 本調査研究では、インタビュー調査で収集したデータを「SWOT分析」というフレームワークを用いて分析を行った。
- 本調査研究は、調査対象の競争力の現状把握と、それに基づいた提言作成が目的であるため、この手法を用いた。
- SWOT分析とは、まず、各訪問先において外部環境と内部環境を**強みと弱み、機会と脅威**の4つのカテゴリーに要因分析し、マトリクスを用いて分類する。(SWOT分析1)
- 次に、SWOT分析1を基に、各マトリクスにおいて、**積極的攻勢**(機会に乗じて強みを活かす)、**段階的施策**(機会を活かして弱みをカバーする)、**差別化戦略**(強みを活かして脅威を回避する)、**防衛または撤退**(損失を最小限にとどめる・弱みの克服)の4つの戦略の概略を策定する。(SWOT分析2)

7

| 研究成果

分析の考察と導出された提言

■ 分析の考察から学生視点で以下の政策提言を導出した

■ 沿岸地域の成長した未来像を描くため提言

● 短期的(3年程度)

- 地域資源を有効活用したイベントの開催。
- 住民の成長の必要性。

(企画力・発進力・情報リテラシー等)

● 中長期的(5~10年程度)

- 若者にとって魅力的な町づくり。
- 官民一体となった話し合いの場をつくる。

8

岩手県沿岸地域のSWOT分析1 Part.1

内部環境 経営資源 -ヒト (人財や組織等) -モノ (設備等) -力ネ (資金等) -情報 -ブランド	強み (Strength)	(モノ) ➢観光・経営資源が豊富 1 →海産物、防災ガイド、自然景観、ジオパーク ➢震災以降に数々のイベントを復活させた 2 (力ネ) ➢国や市の補助金、負担金、委託金をもらっている 3
	弱み (Weakness)	(ヒト) ➢若者の減少 1 ➢少子高齢化 2 ➢外国人観光客に対応できない 3 ➢パソコンを持っていない人が多い 4 (モノ) ➢首都圏まで物理的距離がある 5 ➢企画力、販売力不足 6 →ニーズを理解していない →原料を売ることが価値だと思っている ➢たくさんある素材を使い切れていない 7 ➢三陸沿岸の資源はどこもだいたい同じ 8 (情報) ➢官民一体となった話し合いの場がない 9

岩手県沿岸地域のSWOT分析1 Part.2

外部環境 マクロ -世界経済 -日本経済 セミマクロ -産業環境 -業界環境 ミクロ -個別環境 (個別調査対象のみ)	機会 (Opportunity)	(マクロ) ➢円安で輸入促進 ① ➢海外からの観光客が増加 ② (セミマクロ) ➢沿岸企業の情報リテラシーが上がると新しい仕事ができる可能性 ③ ➢魚が捕れると町がにぎやかになる ④ ➢震災をきっかけとして新しいことができるチャンスが生まれた(被災後に生まれたイベントなど) ⑤ ➢中小企業同友会の人的ネットワークがある ⑥ ➢中国以外の他の国の労働者(賃金格差大・意欲大)を雇用するチャンス ⑦ ➢高校生にとって働きやすくなった(震災後、地元への就職思考を持つ人が増えた) ⑧ ➢地域ごとに特色を出して差別化していく ⑨
	脅威 (Threat)	(マクロ) ➢円安で賃金格差が広がる ① (セミマクロ) ➢人口減少(町づくりの基盤となる集落や人がいない) ② ➢若者の人材不足 ③ ➢高卒が地元から離れる ④ ➢地元に戻ってくる人が少ない ⑤ ➢沿岸企業はITをそれほど経営に活用していない ⑥ ➢かさ上げが後回しにされている ⑦ ➢周辺施設の整備が行き届いていない ⑧ ➢ネットの活用頻度が低い ⑨ ➢放射線の風評被害 ⑩ ➢復興支援の風潮が無くなると事業が続かない ⑪ ➢観光客は増えているように見えるが、内訳をみると増えているのは工事従業者で観光客の割合は減っている ⑫ ➢働き手の労働意欲と雇い手の求める人材のミスマッチ ⑬

岩手県沿岸地域のSWOT分析2

機会(Opportunity)		
(マクロ) ➢円安で輸入促進 ① ➢海外からの観光客が増加 ② (セミマクロ) ➢沿岸企業の情報リテラシーが上がると新しい仕事ができる可能性 ③ ➢魚が捕れると町がにぎやかになる ④ ➢震災をきっかけとして新しいことができるチャンスが生まれた(被災後に生まれたイベントなど) ⑤ ➢中小企業同友会の人的ネットワークがある ⑥ ➢中国以外の他の国の労働者(賃金格差大・意欲大)を雇用するチャンス ⑦ ➢高校生にとって働きやすくなった(震災後、地元への就職思考を持つ人が増えた) ➢地域ごとに特色を出して差別化していく ⑨		
強み(Strength)	積極的攻勢	差別化戦略
(モノ) ➢観光・経営資源が豊富 1 →海産物 →防災ガイド →自然景観 →ジオパーク ➢震災以降に数々のイベントを復活させた 2 (力ネ) ➢国や市の補助金、負担金、委託金をもらっている 3	<ul style="list-style-type: none"> ○差別化したイベントの開催(短期的3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢震災を機に復活したイベントに、その地域独自の資源を組み込むことで、周辺地域と差別化された、魅力ある催事にする。 ○補助金の制度改善(短期3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢新事業を応援する補助金の制度を整える。 ○話し合いの場を設ける(中長期5~10年) <ul style="list-style-type: none"> ➢人的ネットワークを活かし、異業種の経営者同士が地域振興について話し合う場をつくる。これに行政の職員・住民が参加して、地域資源の有効な活用法について総合的な視点から考察する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○若者の採用(短期3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢若者を防災ガイドや観光案内人に任命する。若者の任命は注目を集め、観光客の増加が期待できる。また、幼いときから地域の事業に関わらせてることで、若者の地元愛を育ませる。そして次の世代に防災ガイドを伝承することが重要。 (学生ガイドの事例) <ul style="list-style-type: none"> ①平泉の学生ガイド ②京都の学生による観光ガイド http://association-of-guide.babibari.cc/with.html ○情報発信(短期3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢イベントなど人が多く集まる機会に、放射線の害が無いことを広める、また、沿岸ならではのブランドを発信する。
弱み(Weakness)	段階的施策	防衛または撤退
(ヒト) ➢若者の減少 1 ➢少子高齢化 2 ➢外国人観光客に対応できない 3 ➢パソコンを持っていない人が多い 4 (モノ) ➢首都圏まで物理的距離がある 5 ➢企画力、販売力不足 6 →ニーズを理解していない →売る側の論理で売っている →原料を売ることが価値だと思っている →加工品への視野が狭い ➢たくさんある素材を使い切れていない 7 ➢三陸沿岸の資源はどこもだいたい同じ 8 (情報) ➢官民一体となった話し合いの場がない 9	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人労働者の雇用法(短期3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢ふだん、工場などに勤める外国人労働者に、臨時に観光ガイド(翻訳)をお願いする。意欲を刺激するためにも、語学の能力を評価し、高賃金で雇う。 ○勉強会の開催(短期3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢勉強会を開催する。沿岸企業に不足している企画力や販売力、そしてITに関するテーマを中心に扱う。勉強会は住民同士の交流の場にもなり、これが復興に重要な地域コミュニティを強化することにもつながる。 ➢勉強会の事例:いわて連携復興センターの取り組み http://www.ifc.jp/news/workshop1/ http://www.ifc.jp/news/workshop1/entry-742.html ○イベントで地域活性化(短期3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢震災以降に復活したイベントや、昔からの伝統行事を活性化させる。(老若男女問わない地域内の話題作り例:お祭り) ○若者の確保戦略(中長期5~10年) <ul style="list-style-type: none"> ➢高校生にとって働きやすい職場を増やすことで若者の減少を抑制する。(例:地元採用枠をつくる、就職祝金・祝い品など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ニーズの選定(短期3年) <ul style="list-style-type: none"> ➢ネットを積極的に取り入れるか、物理的距離が近い地域にニーズを探す。 ○キャッチコピーを工夫する(中長期5~10年) <ul style="list-style-type: none"> ➢(例文:良→待ちに待った。〇〇が収穫の時期を迎えた悪→震災から4年〇〇がついに収穫時期)